



## 方谷先生の遺徳をしのいで (6月6日 方谷園・方谷の里ふれあいセンター)

現在の中井町西方出身の漢学者、備中松山藩士で、藩政改革など多くの業績を残した山田方谷を顕彰して造られた「方谷園」の開園100周年記念祭(同記念祭実行委員会主催)が開かれました。奉告祭に続いて行われた記念式典では、関係者のあいさつ・表彰に続き、高梁男性合唱団ぐらんぱが「山田方谷先生の歌」など方谷にちなんだ歌3曲を合唱し、式典に花を添えました。

その後、方谷の里ふれあいセンターに会場を移し、方谷の子孫で元二松學舎理事長の山田安之さん(神奈川県在住・本市市政アドバイザー)が記念講演を行いました。方谷の生涯をはじめ、関連の深い三島中州や山田済斎についても分かりやすく講演し、聴講者は方谷への見識を深めていました。

## 活動の成果を披露

(5月22日・23日 働く婦人の家)

「働く婦人の家グループまつり」(同まつり実行委員会主催)が開かれました。同家を拠点に活動している市内の女性グループが日ごろの活動の成果を発表する場として、毎年この時期に開催されており、26グループが参加。

会場では、パッチワークや書、生け花などの作品展示のほか、社交ダンスやヨガの実演などが行われました。



## 新たな国際交流に向けて (5月11日 ドイツ・ハイデルベルク市)

近藤市長、仲田商工会議所会頭がドイツ・ハイデルベルク市を訪問。エッカート・ヴュルツナー市長、ヴォルフガング・ニオペク商工会議所会頭と会談し、今後、両市間の交流を深めていくことで合意しました。また会談後行われた、学校法人順正学園と市「SRH ハイデルベルク専門学校」の教育交流協定締結にも近藤市長が立ち会いました。大学を生かしたまちづくりの新たな一歩として、期待が膨らみます。

ハイデルベルク市はドイツ南西部にあり、大学を中心とした学術の町です。歴史的な町並みに城、川、そして大学と、本市との共通点が多く、学園文化都市づくりのモデルとしていました。

## 子どもたちに笑顔を

(6月6日 総合文化会館)

「夜回り先生」として有名な水谷修さんの講演会(高梁青年会議所・高梁中央公民館・高梁地域まちづくり推進委員会主催)が行われました。水谷さんは「人は誰かを幸せにし、必要とされるために生きている」「笑顔があるところに悪は近づかない」と命の尊さを熱く語りました。

訪れた約600人は、ユーモアを交えた水谷さんの語り口に引き込まれていました。また、サイン会では、一人ひとりに笑顔で声をかけながらサインに応じていました。



## 青空のもと、思い切りプレー

(5月16日 ききょう緑地グラウンド)

市内と吉備中央町から27チームが参加し、「小学生ソフトボール大会」(高梁青年会議所主催)が開かれました。子どもたちはこの日に備えて練習した成果を出そうと懸命にプレー。チームメイトや父兄から大きな声援が送られました。

大会は、大規模校で争うJトーナメントで有漢西A、小規模校によるCトーナメントは上竹荘(吉備中央町)が優勝しました。



## みんなでスポーツを楽しもう

(6月5日 市民体育館)

「第6回高梁市障害者スポーツ大会」(市・市身体障害者福祉協会主催)が開催されました。

市内の障害者が相互の協調を図り親睦を深めるとともに、障害者に対する理解を深めてもらう目的で開催しているもので、市内の障害者団体に所属する障害者など134人が参加しました。20チームに分かれて風船運び競争や輪投げなど7つの競技を実施。スポーツを通じて交流を深めました。

